



新代会
本間 保昭

市立病院経営計画について

質問 平成28年度から32年度までの経営計画が策定され、収支改善を目指しているが、実質的なスタートラインと言える今年度当初において、目標達成に向けた具体的な取り組み項目について、それぞれの実施体制の現状と進捗状況について伺う。

答弁 医師の招へいについては、今年度より常勤医師を整形外科医1人と眼科医1人を増員し、38人体制となつています。前年度と比較し、入院患者数や手術件数も増加傾向にあるところです。

また、今年の3医学大学への訪問は、例年より早く5月から始めており、積極的に活動しているところです。医師以外にも、薬剤師1人、理学療法士1人の増員を図つたところであり、今後とも体制の強化に努め、収益の向上につなげていきたいと考えています。

収益力の向上対策の一つとして、

昨年末に診療報酬等算定向上プロジェクトを立ち上げ、栄養指導など順次実行段階へ入ってきているところです。これは、患者に安心できる質の高い医療を提供することにより、収益の確保に努めていくものです。

施設基準の新規取得、ランクアップにも取り組んでいます。そのほか、お手軽検診や特別室の利用者増に向けたPRなども実施しています。

経費の縮減としては、今年度より医療材料の共同購入サービスに加入し、価格面のスケールメリットを生かしたいと考えています。

なお、後発医薬品の使用促進にも努めており、今年1月から3月の切り替え率も90・8%と高水準にあるところです。また、照明のLED化も進めています。

今年度は、入院コントロールセンター設置の検討や、医療材料購入や給食業務などの効率化に向けた検討を進める予定をしています。

経営計画での各項目ごとの検討時期については、状況を見極め、前倒しすべきものは前倒しして進めていきたいと考えています。



会派清新
東元 勝己

地域おこし協力隊について

質問 地域おこし協力隊の現状と成果や今後の課題について伺う。

答弁 現在、本市の地域おこし協力隊員は8人が活動しています。産業振興部所管で国際交流・国際観光事業に1人、ものづくりによる商店街活性化事業に2人、地ビールの製造等に1人、リンゴの栽培技術習得と6次産業化事業に1人、羊文化の普及と江部乙地域の地域資源を活用した観光事業に1人の計6人、教育部所管ではパークゴルフ場の開設運営に1人、生涯学習活性化事業に1人の計2人を委嘱しています。

平成28年度末で任期満了した隊員1人が市内で起業しており、起業にあたっては滝川市地域おこし協力隊起業支援補助金を交付しています。

全国の地域おこし協力隊員は年々増加し、28年度末で3、978人、27年度末に比べ1、353

人増加しており、地域おこし協力隊への需要が高まっている表れです。今後の制度活用については、全国状況を把握しながら本市に必要な人材、能力を見定めて対応していきたいと考えています。

江部乙駅を示す標識について

質問 江部乙駅を指し示す道路標識の設置についての進捗状況を伺う。

答弁 平成25年第3回定例会で質問をいただき、その後、道路管理者である国に相談をしたところ、国では、従来から標識が無かったことは、道路付帯施設として設置する必要性が低いと判断されています。しかし、江部乙まちづくりコミュニティ行動隊を中心に江部乙駅を活用した活動は、駅カフェや國學院大學北海道短期大学の学生による駅舎周辺の美化活動など地域振興の輪が広がり、活動が活発化していることは市も認識しています。

今後、地域で活動している「日本でも美しい村連合」江部乙協議会などの団体と情報交換し、引き続き検討していきます。